

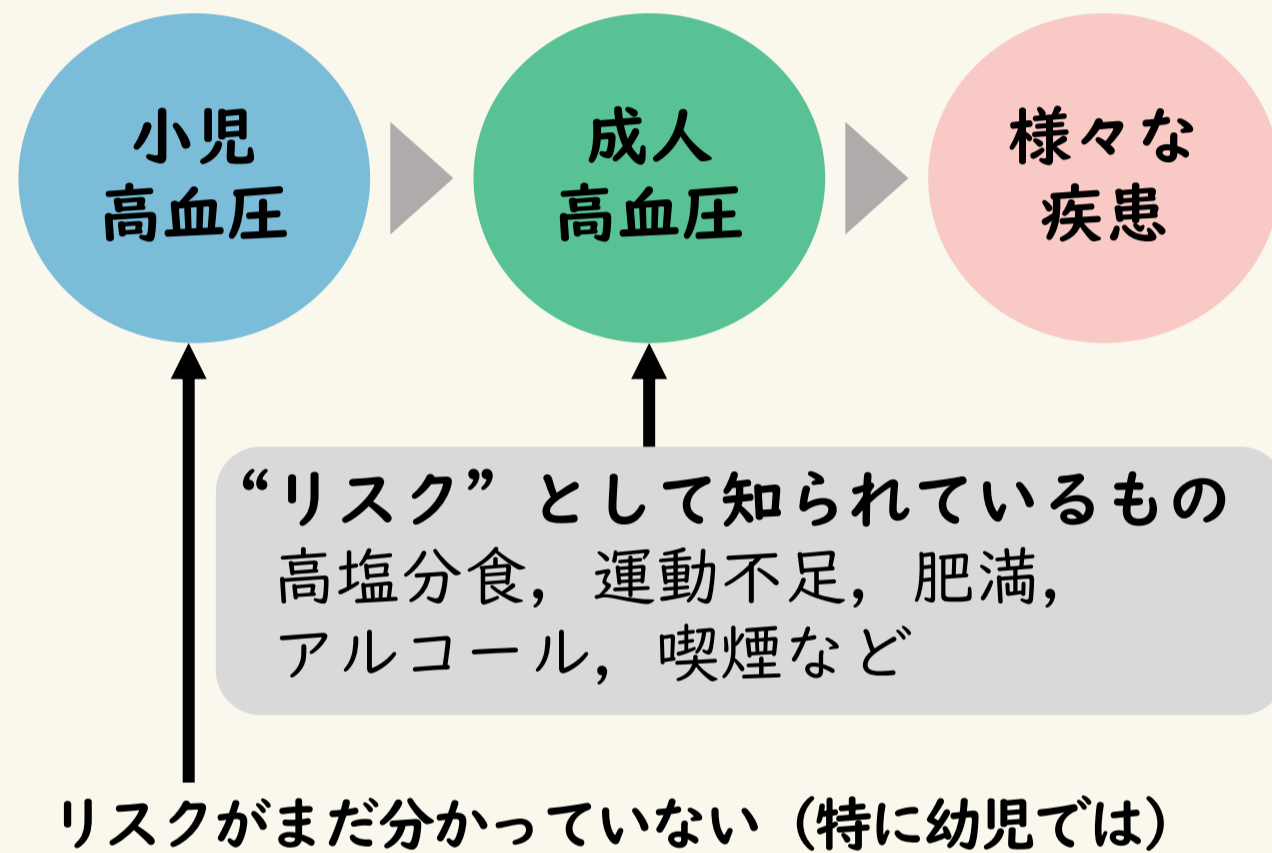
幼児期の血圧に影響する環境とは？

発達環境医学分野 金森 啓太

Kanamori K, Suzuki T, Tatsuta N, Ota C, Japan Environment and Children's Study Group. Environments affect blood pressure in toddlers: The Japan Environment and Children's Study. *Pediatr Res.* 2023. doi:[10.1038/s41390-023-02796-8](https://doi.org/10.1038/s41390-023-02796-8)

【はじめに】

高血圧は、心臓病や脳血管疾患などの原因になります。幼児期の高血圧は成人期の高血圧に繋がりますが、そのリスク要因については、これまで明らかではありませんでした。



【研究目的】

幼児の高血圧の原因を調べるため以下の2点を調査しました。

- ①2・4歳の血圧の正常範囲
- ②幼児の高血圧に繋がるリスク要因

【調査項目】

血圧

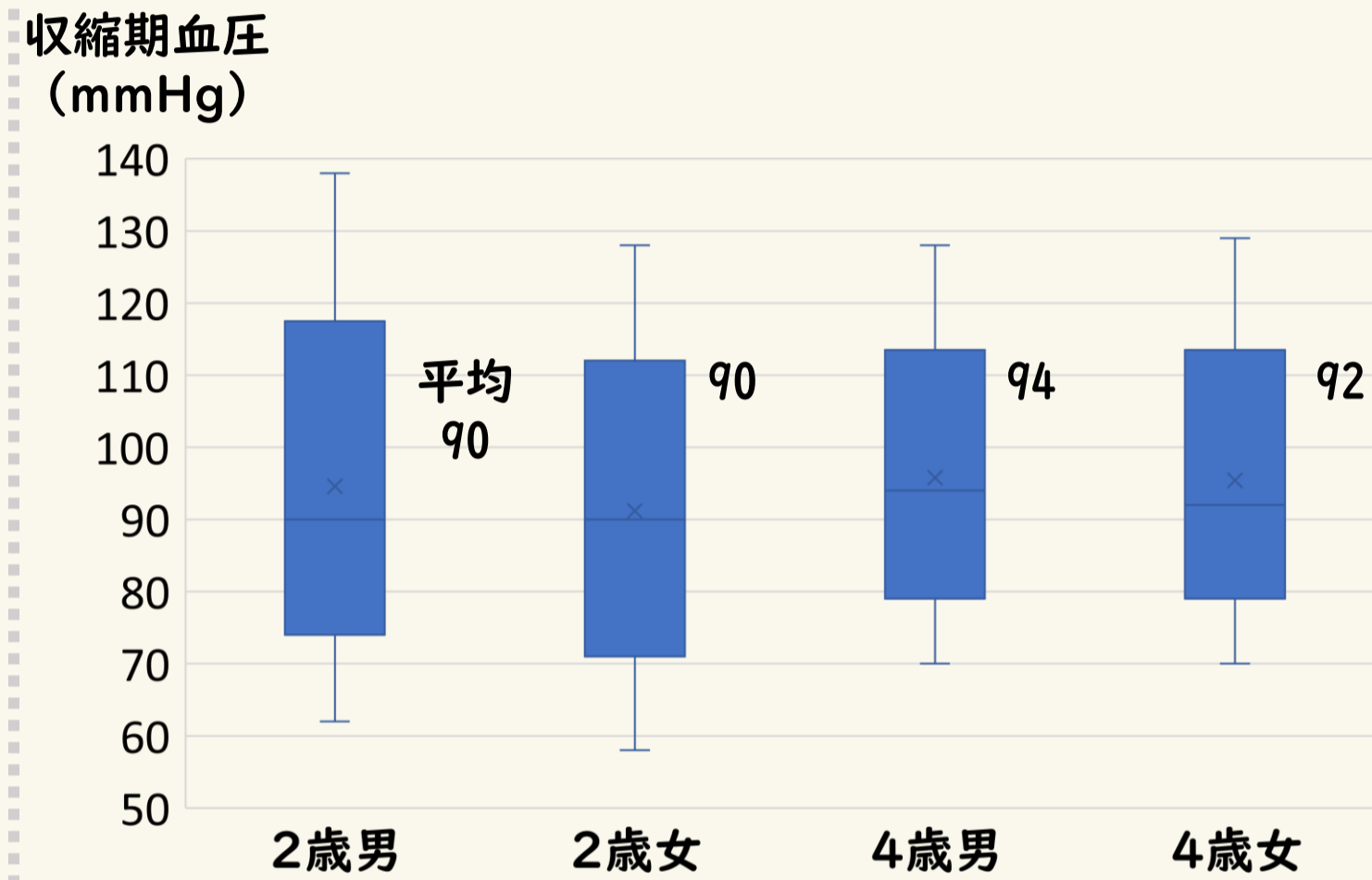
- ・3回測定し中央値を採用
- ・測定時に啼泣や体動があった測定値は除外
- ・身長、体重、甲状腺機能（血液検査）

<アンケート調査から>

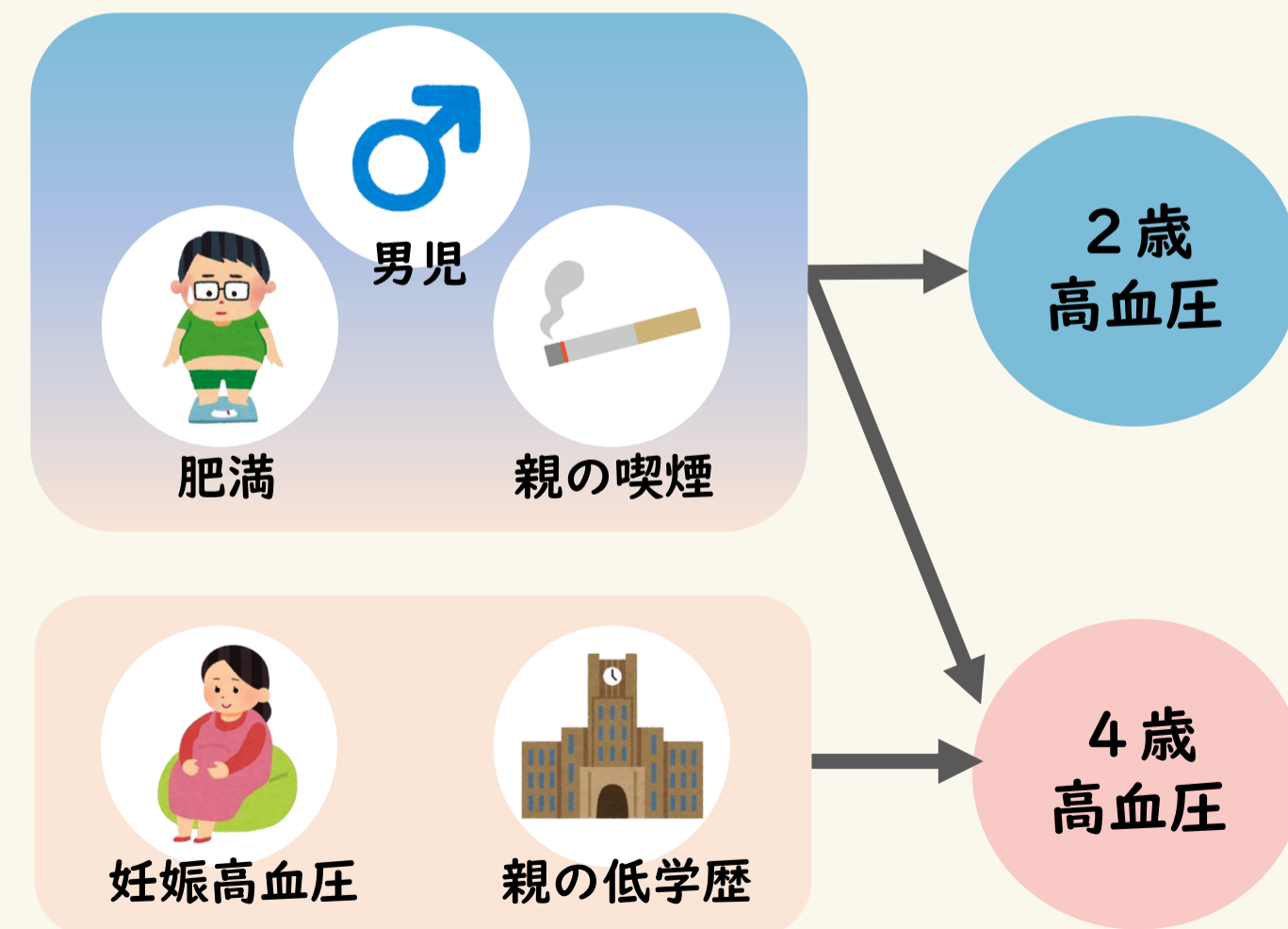
出生体重、既往歴、妊娠中の母体高血圧、両親の身長・体重、両親の学歴、両親の喫煙、母親の飲酒

【結果①：血圧の範囲】

参加者：4,988人
(男：2,541人, 女：2,445人, 性別記載なし：2人)

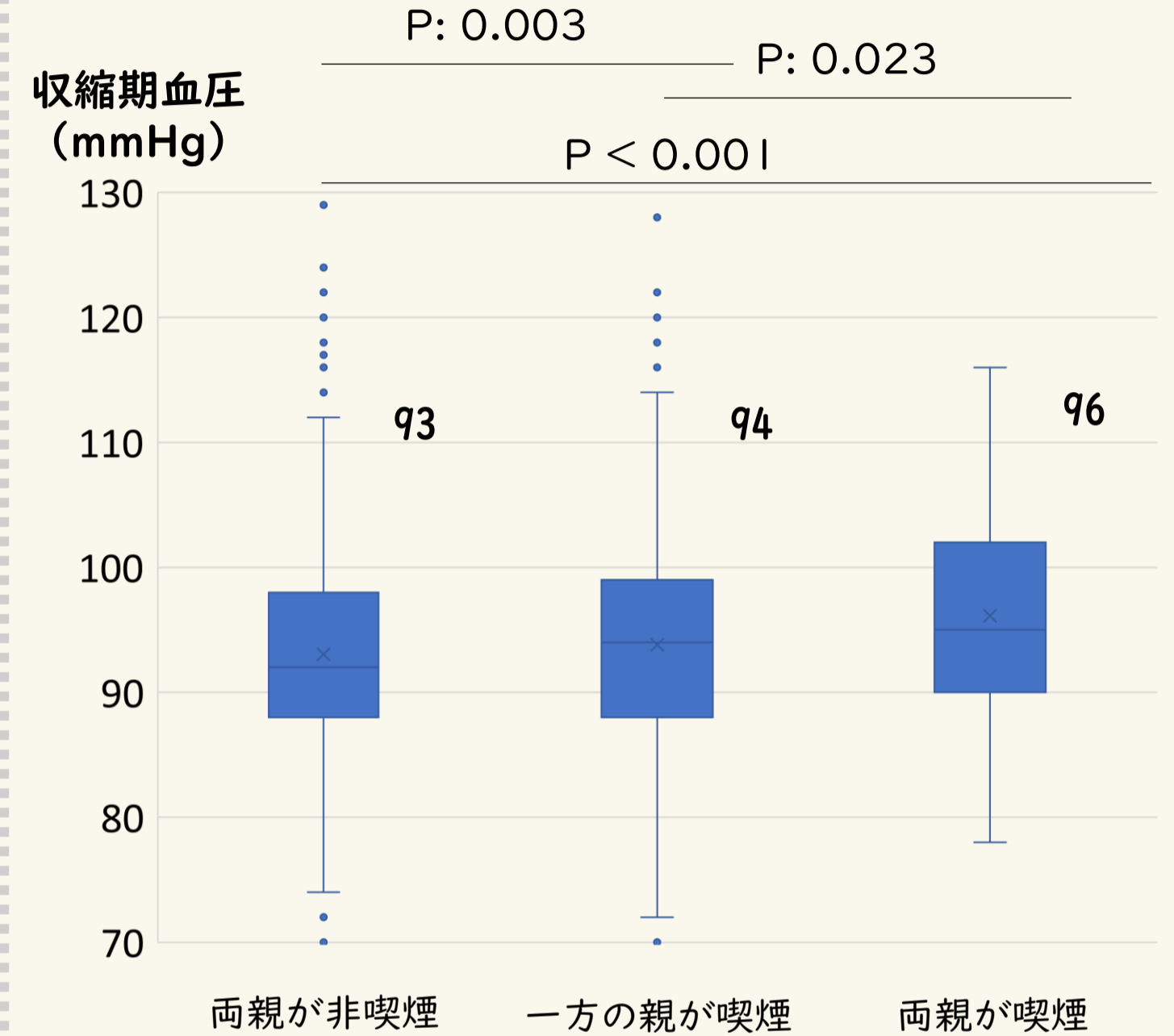


【結果②：環境因子と高血圧の関連】



早期（2歳時点）から影響する環境因子として“親の喫煙”が特定されました。

【結果③：喫煙者数と血圧の関連】



保護者の喫煙者数が増えるごとに、統計学的有意差をもって血圧は上昇しました。

【メッセージ】

受動喫煙、肥満は幼児の高血圧のリスクであり、その影響は早期から現れました。

将来の生活習慣病や高血圧を予防するためには、早期からの受動喫煙を回避することが重要です。